

クラブはすでに昭和三十七年八月二十四日、卓話十三回目に済んでいたもので、それに代わる代表クラブとしてこの南クラブを選んだのでした。このクラブの会員名簿を見ていましたら、その中に「平井常次郎」というお名前があり、びっくりしたのでした。それは四十年前も前、私が日本最初の旅客飛行で大阪から東京まで乗って行った時、同乗しておられた朝日新聞社会部の記者・平井常次郎さんに違いないと思ったのでした。私が飛行機の上から妹に華文字のはがき（飛行機の形をとった華文字はがき）を妹に出すように書いたものを、このお方に預けて記念に出していただきたいのでした。それで忘れることができなかったお名前でした。その方に違いないと思ったのでした。四十年前も前のこと、どうしておられるかいつも念頭を去らなかつたのでした。この方に違いない、思いがけないことにびっくりしたのでした。こうも不思議なご縁があるものかと誠に驚いたのでした。

早速平井さんをお訪ねしたのです。平井さんは、ただはがきを出しただけなのですから、記念にいつしよに写られた写真や、ご自分でお書きになった新聞記事、その中には私が飛行機型の文字を書いたはがき（華文字はがきのこと）を病

